

がん性疼痛に対する最適な非オピオイド鎮痛薬の選択に関する研究

【患者様へのお願い】

(2016年1月から2016年9月の9カ月間に当院でがん性疼痛の薬物治療を受けられた患者様へ)

現在、がん性疼痛の第1段階の治療薬としてカロナール® (アセトアミノフェン(APAP)) または非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAIDs)であるロキソニン® (ロキソプロフェン) 等が用いられています。肝あるいは腎機能が低下している場合、それぞれNSAIDsあるいはAPAPが用いられます。しかし、肝・腎両機能が顕著に低下していない患者様に対して、どちらを投与すべきかについて選択基準は決められていません。本研究では、がん性疼痛に対する最適な非オピオイド鎮痛薬の選択について調査します。

患者様の名前など個人情報 は 厳重に、保護、管理されるとともに、研究成果の公表の際は個人が特定されないように処理しています。また、この研究による不利益や危険はありません。

本研究にご自身の診療情報を使用して欲しくないとお考えの際はいつでも下記までご連絡下さい。また、そのような場合も一切の不利益は生じません。

研究代表者名

国立病院機構京都医療センター薬剤部 畑 裕基

〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町 1-1

TEL 075-641-9161 (代表)

FAX 075-643-4325